



日章学園九州国際高等学校校長便り 如月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

学園スローガン：やり抜く力

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和3年(2021年)2月1日(月)校長 屋田伸仁



愚公移山



今年の学園スローガンは、「やり抜く力」です。

「やる力」ではありません。「やり抜く力」です。

英語で簡単に言えば、Doでなく、Do, Do, Doの力です。中国語で言えば、加油の力でなく、加油、加油、再加油の力です。

「やり抜く力」の話をするときに、よく使われる故事成語に「愚公移山」があります。昔、中国に愚公という爺さんがいました。愚公爺さんの家の前に、二つの大きな山があり、通り抜けるのにとてもたいへんでした。そこで、邪魔に思った愚公じいさんは、山を切り崩して、よそへ移そうとしました。しかし、機械もない時代だったので、作業は一向に進みません。すると、近所のおじいさんが言いました。

「あなたは、馬鹿じゃないか。この年で、小さな山すら崩せないので、ましてや大きな二つの山を切り崩せるわけがないだろう？」すると、愚公爺さんは笑って言いました。「わしが死んだら息子がいる。息子が死んだら孫がいる。子どもたちや孫たちにつないでいけばいつか山も平らになるだろう。」すると、それを聞いた山の神様が愚公爺さんのその「やり抜く強い心」に感心して、二つ山を他の場所に移しましたというお話です。愚公じいさんの「やり抜く力」は半端ではありません。自分の代だけでなく、子どもや孫の代まで、やり続ける覚悟です。すごい人です。

アメリカの心理学のアンジェラ・ダックワース博士が人生のいろんな分野で成功を収めた人の「やり抜く力」を研究しました。その結果、成功者には共通して、目標実現に向けて、情熱や忍耐力でがんばり続ける力が人並み以上にあると発見しました。

「やり抜く力」は英語で、



GRIT The Power of Passion and Perseverance

と呼んでいます。高校生達は、このコロナ禍で自分の心が折れそうになったことが何度もあったことでしょう。しかし、どんな逆境、苦難の中でも、夢に向かって「やり抜く力」(GRIT)で努力を続けてほしいと願います。



異文化コミュニケーション力

今年の丑年にちなんだ四字熟語に、「対牛彈琴」があります。牛に対して琴を弾く。牛は音楽を聞く耳を持たないので、牛に音楽を聴かせても無駄だという意味です。英語でコミュニケーションしても、英語がわからなければ、伝わりません。無意味です。

本校は校名のとおり、国際高校です。学校便りの先月号まで、本校の特徴として、「寮のある単位制高校」や「少人数指導」を紹介してきましたが、「異文化コミュニケーション力の育成」にも、力を入れています。英検、中検、漢検等対策は週時間割に入れて、資格取得のための指導を行っています。

また、県英語弁論スピーチ大会出場や留学生との交流活動、えびの市国際交流センターでの活動参加等、年間を通して語学力の育成に努めています。卒業生の中にも、本校に入学して初めて外国語に興味関心を持ち、国内外の外国語大学へ進学する生徒も少なくありません。

日章学園九州国際高等学校で異文化コミュニケーション力を高め、国際交流の高校生活をエンジョイしませんか。

